

地元食材の新メニューでまちなかに賑わいを!! ～七尾まちなか屋台市を開催する～

七尾商店街連合会では、7月19日(日)に御祓川河畔の泰平橋周辺で「七尾まちなか屋台市」を開催した。今回の屋台市は、石川県産業復興振興路開拓等支援事業の一環として企画し、能登地域の食材を活用した新メニューによる話題づくりと併せ、中心商店街の売上アップを目指す事を目的に実施した。

メニューは、「能登おにぎり」、「磯の香ドッグ」、「ほくほくスティック」の3種類を販売した。

「能登おにぎり」は、普通のきんぴら味とカレー味の2個セット。「磯の香ドッグ」は、ちくわの中に牛蒡・人参・チーズを入れて磯部揚げにしたものを、商店街の老舗パン屋のドックパンではさんだ。「ほくほくスティック」は、能登牛ミンチをたっぷりといれたコロッケの生地を大葉と春巻きでくるんで揚げた。



いずれのメニューも地元七尾にある、^{おひとり} 鵬学園高等学校調理科の生徒達が考案したものに手を加え、屋台やテイクアウトで気軽に食べられる味となっている。価格は300円。

当日は、御祓川まつり・能路市場(のじまーけつと)などの地元のお祭りと同様開催。午後5時から販売を開始。約2時間で、能登おにぎりが完売し、他の2つのメニューも午後9時には完売。盛況のうちに屋台市を終了した。

今後は、今回のメニューをよりグレードアップし、地域のB級グルメの代表となるようなブランドづくりを目指し、地元はもとより街中観光に訪れた観光客にも提供できるメニューを目指していく。

七尾商店街連合会

農商工連携フォーラム in 富山 ～農林漁業者と商工業者の融合が新ビジネスを生む～ (商店街ニュースNo85に続く)

第2回農商工等連携事業計画認定事業の紹介 (フォーラムの資料から)

平成20年7月21日農商工等連携促進法が施行されましたが、第2期49件が認定されており、中部・北陸地域は12件(石川県2件、富山県2件)。

- 1 能登のお米を利用した「お米アイスクリーム」の開発、製造、販売
(金沢市)(認定:平成20年12月22日 4-20-017)
中小企業者:株式会社越山商店「アイスクリームの製造、販売」
農林漁業者:谷内前農産「好適米の供給」
連携参加者:株式会社ホリ乳業「乳製品の供給」
JAすすし「能登小豆、能登黒豆、能登栗等の供給」
お米の新規需要の創出と低脂肪、低カロリーの健康志向にあった新しいスイーツの開発・販売
- 2 能登の食材を利用した発酵食品(かぶらずし)の製造・販売
(七尾市)(認定:平成20年12月22日 4-20-018)
中小企業者:株式会社能登半島「発酵技術(二段氷温熟成)、製造設備」
農林漁業者:株式会社スギヨ「百万石青首かぶら(農業参入農業法人化を目指す)株式会社佐々波鯛網「能登産ぶり(鮮度保持)」
連携参加者:能登町ふれあい公社「能登海洋深層水塩製造」
津田味噌醤油店「能登産米麹の製造」
能登でしか製造できない本物志向の「能登かぶらずし」を製造
- 3 地元産大麦を使った麦芽と日本有数の清流・黒部川の名水を使用した「モルト麦芽」の開発・販売
(富山県黒部市)(認定:平成20年12月22日 4-20-014)
中小企業者:宇奈月ビール株式会社「麦芽製造・地ビールの販売ルート」
農林漁業者:黒部市ビール麦生産組合「大麦の安定供給・品質選定(二条麦)」
連携参加者:黒部まちづくり協議会「商品PR」
JA黒部「大麦の肥培管理指導」
健康市場への参入、黒部のブランド力向上、地産地消・地域活性化促進

- 4 中山間地の耕作放棄地を利用したネマガリタケ栽培とレトルト加工食品の製造・販売
(富山市)(認定:平成20年12月22日 4-20-016)
中小企業者:農事組合法人八尾農林産物加工組合「加工技術」
農林漁業者:八尾ネマガリタケ生産組合「耕作放棄地での栽培」
連携参加者:富山県農林水産総合技術センター「レトルト加工技術指導」
富山県立大学生物工学科「栽培技術指導」
ネマガリタケ加工品の差別化を図るため、レトルト加工に取り組み、長期保存可能な食材となる。中山間地の耕作放棄地を活用した農業活性化。
- 5 抹茶業界初の「粉末状退色防止抹茶」の製造・販売
(愛知県西尾市)(4-20-007)
- 6 大型有機農場直送の新鮮な有機農産物を真空パックしたカット野菜等の販売
(愛知県名古屋市)(4-20-008)
- 7 鮮度管理されたブランド卵の販売
(愛知県岡崎市)(4-20-009)
- 8 渥美半島産カンパリトマトを使用したフレッシュトマトカクテルの製造・販売
(愛知県田原市)(4-20-010)
- 9 低温蒸気加熱乾燥によるドライ野菜缶詰の製造販売
(岐阜県羽島市)(4-20-011)
- 10 円空芋の親芋を活用した里芋焼酎の製造販売
(岐阜県関市)(4-20-012)
- 11 鶏糞とおからを活用した完全発酵有機肥料の製造販売
(岐阜県郡上市)(4-20-013)
- 12 特定農産物向け多機能肥料の製造・販売
(岐阜県中津川市)(4-20-014)

燈籠山祭 ~燈籠山と一緒に曳こう、能登半島・珠洲市飯田町~



奥能登の極めつけ、7月20日21日、ここ珠洲市飯田町で「燈籠山祭り」行われる。お祭りの起源は、春日神社に祀りしてある神々を夕涼みに町内にお出まし願ったのが始まりとか。

この神社の祭礼として曳かれる、高さおよそ16メートルの「飯田燈籠山」が漆塗りに金箔を施した唐破風入り母屋二層の町内曳山8基とともにまちなかを曳き歩きます。

神社を出た曳山は、「燈籠山通り」を往復した後、先頃完成した「春日通り」(参道)、横架線の無い「港町通り」を経て、若山川河口に架かる「吾妻橋」に至り、また今来た道に戻っていきます。

町内ごとに設けてある「踊り舞台」の手前で立ち止まり、今町の子供さんによる花笠音頭、南町の夢酔い人、南濱町の八木節など「子供踊り披露」があり、町内・地域・まちを訪れた人々から盛んな拍手喝采をあげていました。お祭の見せ場です。

燈籠山、曳山は、小学生の手になるスイカ、風鈴、花火、ひまわりなどの絵入りの手づくりぼんぼり100基余りに灯がともされた沿道のなか、40名余りの若連、女性をはじめ子どもたちが木遣り歌を合図に優雅な横笛、太鼓、鐘による祭り囃子に合わせ、曳かれ、「吾妻橋」に集結。8基の曳山と、中央には、武蔵坊弁慶が、茜色に染まった夕暮れの天に向かって佇立、吾妻橋に立ち並ぶ光景は、壮観そのものです。花火の打ち上げが始まるとともに、この日のクライマックスを迎えます。

その勢いは、夜の部で更に加速されます。紅白の祝宴幕の張られた玄関に入ると、そこは、親類縁者、実懇の人、お世話になった人たち等、大勢の人が集まってくるという話を聴くにつけうなずけるものがありました。ご主人から、「まず、一献」からはじまり、はなしに花が咲きます。こころづくしのお接待を受けます。人と人との交流が始まり、また強固に絆が結ばれます。

御膳には、「伝統とロマンの里へ、珠洲・飯田燈籠山祭」のクライマックスを写した被いが掛けてあります。珠洲飯田の篤志家が寄贈したもので、すべてのおうちで使われているとか。

その日がくるのを待ちかねて、能登の人たちは、お正月でもお盆でもなく、自分の生まれ育った故郷のまちに帰ってくる、という話を聴くにつけうなずけるものがありました。

先頃、東京で活躍されている方々により、地域発展を支えるため「奥能登東京応援団」が結成されており、家族や血縁は、言うに及ばず、友人、知人、地縁の人たちがともに交流し連帯の絆を深めていく。「飯田燈籠山祭り」はこの絆のシンボリックな象徴であり、珠洲飯田の底力であり、パワーの源と実感しました。



「燈籠山祭り」のスポット情報

- ・商店街中央にある飯田バス停「あいあいパーク」に燈籠山祭りの壁画が飾ってあります。
- ・商店街理事長のお店に、「燈籠山」を再現した模型やお祭りで活躍する、法被、手ぬぐい、白足袋、シャツや藍染暖簾(大、小)などのグッズが一同に展示され、販売されています。理事長さんからお祭りのいわれなどのお話を聞き、地域の人たちとの交流を楽しんでみてはいかがでしょうか。一見の価値ありです。

やましろの夏まつり ~新総湯誕生でまちなかに更なる賑わい~

長かった梅雨がうそのように抜けた真夏の8月2日恒例の山代夏まつり始まる。特養ホーム「慈妙院」と連携して2年目。「バルーンの花ちゃんショー」、「一向一揆太鼓ショー」など多彩なショーに拍手喝采。カレーライス、ソーメン、スイカ、かき氷、とうもろこしなどの振る舞いもあり、施設入所者とその家族、地域の人たちと和気合々と談笑しながら会話が弾みます。時折、愛嬌をふりふり廻るアンパンマンめいぐるみが会場に一輪の花を添えています。



先ごろ、新総湯がオープンしたこともあり、タオルに湯桶を片手に浴衣姿の人たち、温泉旅館の着物を着てお店に入って買い物を楽しむ人、地図を片手にまち歩きを楽しむグループなど、行き交う人たちがまちなかの人がおりは絶えることがありません。

ホコ天の中、茜色に染まった夕暮れ時、パーベキューに舌鼓を打ちながら、会話を楽しむファミリー、ヨーヨーに興ずる子どもたち、ガラポンの大抽選会に行列、1等賞「温泉ペア宿泊券」に歓声!等々いつもみることのできる夏の風物詩、これが、地域コミュニティの原点だと、感服です。

山代新総湯は、「湯の曲輪」に面した「旧吉野屋旅館」跡地に、8月2日オープンしたばかり。浴室壁面には、地元九谷焼作家59人による九谷焼タイルが使われており、観光スポットとしても注目されています。

来年春には「山代ファミリーサポートセンター」が新総湯右横にオープン予定。空き店舗を活用した、温泉地活性化として、地域家族、教育力再生の基地として、NPO法人「あらはん」が運営することになっています。

また来年秋には、「旧総湯」は、入浴しながら温泉の歴史・文化が楽しめる「体験型博物館」として生まれ変わります。「山代楽歩館」をはじめ「はづちを楽堂」や「足湯」などもあり、まちなかの更なる賑わいが期待されています。



JAPAN TENTO ~ふるさと愛 ようこそ小松へ~

ここ小松で、8月22日(土)、三日市・中央通り商店街が交差するステージでのおもちつきを皮切りに世界29カ国の留学生と市民・商店街との交流イベント始まる。



商店街店主の掛け声にあわせ、カザフスタン、台湾、ポーランド、ベトナム、中国一留学生が順番におもちをつきます。つきたてのおもちをほおばりながら、留学生同士が、テーブルに座って交流する場面も。

中央通り商店街では、猫橋なつかしの夜店市「昭和の屋台遊び」、西尾の夕市、やきとり、パーベキューに生ビールを片手に「ピラリズム(昭和ぽいJAZZ)」バンド演奏を聴きながら交流する姿が印象的でした。ステージでは、ライブのほか、小松尾小屋保存会による加賀簾が披露されました。登り手のポーズに拍手喝采。



三日市通りは、「デコパージュ」、「和紙ざり絵」体験教室に人気があり、留学生は熱心に制作。クレープ・ホットドック、モグモグの黒タイヤキの移動販売車、やきそば、手づくりコロケ、かき氷の屋台も登場、流し小松うどん、和菓子の製造販売もあり、通りは、浴衣姿でそぞろ歩く留学生やその子どもたちが行き交う国際色豊かな通りに変身です。

駅前市民広場で、「小松サマージャム2009〜ペーターベンをけっ飛ばせ〜」熱狂のロックイベントで宵の口から夜遅くまでまちなかは、賑わい溢れました。

留学生といっしょに、「縁日」、「もちつき」、「はしご祭り」で日本のよき伝統・日本のふるさとを強烈にPR。「JAPAN TENTO」にふさわしいものになりました。

小松市は、7月から毎週土曜日「サタデーナイト広場」と銘打って中心市街地賑わい創出を図っています。「ヨサコイソーラン日本海加賀地区大会10周年記念」(7月11日)をはじめ毎週土曜日ごとに「週末小松駅前には何かがおこる!」イベントとしておこなわれており、9月27日までの間、駅前広場をメイン会場にダンス、パフォーマンス、BMX世界大会、ヨサコイソーランなどが繰りひろげます。今回の「ジャパンテント&熱狂」は、6回目。



今秋にも駅高架下に7基の照明等を設置し、中心市街地活性化イベント会場として、賑わい創出に人役買うこととされています。乞うご期待!

TOPIC
4

タテフェス430

～大規模フェスでまちなか商店街に賑わい創出～ (8月8日・9日)

豎町商店街(金沢)がイベント会場となる「タテフェス430」が2日間にわたって多彩に繰り広げられ、「ファッションのまち豎町」、「若者のまち豎町」を遺憾なくアピールし、タテマチの魅力を大いに発信。

商店街中程の空き店舗「オーバル」では、古着、小物など90パーセントオフのものもある「タテマチアウトレットストア」、「スイーツショップ」、ステージでは、商業イベント「ジャズブレッソ」があり、一夜限りのクラブの雰囲気を楽しむ。ベリーダンスなどのダンスパフォーマンス、小径自転車BMXの特技や今秋発売予定の「タテマチ×金沢美少女図鑑」コラボ冊子のモデル公開カメラテスト、モデル登録、トークショーのほか、商店街は、営業を10時まで時間延長して「ナイトショッピング」を実施。ライトアップされた町並みの各店舗で夜遅くまでショップを楽しむ若者で賑わいました。

商店街に入って間もない空き店舗では、今年開設された「金沢マチナカ大学」で講義があり、真剣な眼差しで講義に聴き入っている若手業者。外からでもこの真剣な「学び」がひしひしと伝わってきます。これからの商店街のあるべき姿の一端を垣間見た想いです。

豎町広場では、フードカーによるホットドックやクレープなどの販売と「金沢ゆめ街道」の特別協力で金沢ストリートダンスチャレンジなどがおこなわれました。

国道157号線、片町-武蔵交差点の1.5km余り、「金沢ゆめ街道2009」が同時開催されており、県都のメインストリートは、虎之介和太鼓、ヨソコイソランなど一とお祭広場と化しており、飲食の屋台をはじめビアガーデンも登場するなど、豎町・片町・香林坊などの界限は終日押すな押すなのお祭ムード一色に盛り上がりました。

タテフェス430は、10月11日12日に第2弾「CAR&FASHION」が企画予定されています。



TOPIC
5

石引通りに、アートなまちを演出・まちなかに更なる賑わいを仕掛ける!

今年で33回目、石引商店街(金沢)で恒例の「石引夏祭り」(8月7日)はじまる。

地域の人たちは、早くからテーブルを陣取って「ぶらり石引屋台横丁」の焼き鳥、焼きいか、岩魚焼きなどを買い込んで酒盛りです。

子供たちは、サイコロゲーム、輪投げ、的当て、金魚すくいなどに興じています。地域の金融機関の人たちや金沢美大生は応援に余念がありません。おかみさん会「ふたば会」による「青空市場」では、地もの野菜や果物、ジュースなどの販売のほか、エコ活動の成果として「廃油石けん」の販売もありました。

今回のおまつりに、まちなかの賑わいづくりとして用意された美大生の手になる提灯が店頭に飾られ、花火、スイカ、アサガオなど夏の風物を形どった色紙で切り張りされた提灯には、しっかりと、それぞれのお店の名前もありました。

美大生が応募作成した手づくり提灯が飾られた広場では、めんたんびんブルースバンド、民謡ショーなどあり、夜遅くまで賑わっていました。

美大生と協働したまちなか賑わい創出は、去る3月20日、美大生有士「ARTISTONE」による空き店舗を活用した「アートステーション石引、アートフェスティバル石引から発信」が行われております。かつて、石引を走っていた市電の写真展、映像、ライブ、演劇のほか、駅をテーマに各店舗自慢の石引オリジナル駅弁、石引スイーツ、能登の食材・能登牛、門前そば、能登かき、鯖寿司、海の幸が販売され、石引能登コラボレーション(〇〇のお揚げ×門前そば=キツネそば、〇〇の豆腐×能登かき=石引きかき鍋など)などユニークな取り組みもあり、商店街各店と能登の交流を図っていました。

市電の廃線時にはしたた花電車に飾り付けしたマイクロバスが、下馬地蔵と金沢21世紀美術館を結んで、まちなかは、地域の人たちで終日賑わいました。

組合は、平成19年から金沢美大生と連携し、商店街を活性化する事業に取り組んでおり、まちなかがアートな公共空間として活用され、まちなかに賑わい創出をはかるという試みが定着しています。



平成21年度 第1回 全国商店街女性部セミナーに参加して

去る7月22日に東京で開催された「全国商店街女性部セミナー」に参加。全国の商店街女性部や商店街連盟おかみさん会など参加者35名を対象に講演会が催されました。

最初は柳イデア末盛賢一氏により「地元が一番ー私の商店街自慢ー」と題してTVでお馴染みの「出没!アド街ック天国」や「秘密のケンミンSHOW」地元の関心が高まる番組を交えながら、効果的なコミュニケーションのとり方を和やかにご教授頂きました。

次に岡橋マーケティング研究所岡橋葉子所長より「女性の意識と行動がもたらす消費文化の構造の変化」と題して参加者の取り組み事例を発表して頂きながら意見交換の場もあり、わかり易く楽しい講演となりました。

終了後は懇親会があり、全国の人たちと交流が出来、個人消費の低迷と同じ課題を抱えている中のおかみさんパワーの行動力には脱帽いたしました。

印象に残った事例として

- ・関本町2丁目商店街振興組合(岐阜県関市) 店先でのお茶等の接待やトイレの貸出などの「おもてなしの心」
- ・京都三条会商店街振興組合(京都市) 商店街の地区内にある店舗で組合に全店舗が属しており未加入者いない。またスタンブ事業の取り組みや毎月イベントの開催の集客。
- ・下通二番街商店街振興組合(熊本市) 西日本最大級のアーケード街を生かして、「肥後のひなまつり」を企画実行、熊本市全域からひな飾りを寄贈してもらい、地元の人達を巻き込んで実行する事で活性化に繋がった。Etc……

女性ならではの取り組み、心遣いに感服し、私に何が出来るのかと感慨深い日となりました。



豎町商店街振興組合 事務局次長 渡辺 久子

平成21年度 第1回 全国商店街青年部指導者研修会に参加して



熊本。私の好きな町の一つです。想像するよりも小さな駅と、昔ながらの佇まい。しかしタクシーで熊本城近くのホテル会場に向かうと、途中で近代的なアーケードに覆われた巨大な商店街を見ることができます。

文化、食、賑わい、いろんなものが絶妙の調和をなして混在する街。そんな印象です。

さて、今回の指導者研修会の内容ですが、株式会社全国商店街支援センターの館部年明氏によるセンターの取り組みについて、と静岡呉服町名店街の池田浩之氏による、一店逸品運動の紹介が初日の講演でした。

最初の商店街支援センターとは、日本商工会議所など中小企業4団体が設立したもので、長野市など各地の支援を行っている機関です。こうした団体(企業)があることは知らない方も多いのではないのでしょうか?岡田屋時代からジャスコを中から見てきたという服部氏。「住、職、福、学、公益、憩、観」を町中に「お客様視線で」取り入れることが重要だと説いてらっしゃいました。続いてのお話は「一店逸品運動」。もうすでに16年も続いており、その完成度はいくつも逸品運動の話聞いてきた私も、思わず納得させられる深い内容のお話でした。「まちが集客した人を相手に商売する」のではなく「自分で集客して商売するお店をつくる」。それが逸品運動の原点だと。当然、始めた頃はメンバーが集まらないなど、何処の商店街も抱えるであろう問題点もあったそうです。でも、そこは「商店街」です。直接に赴いて声をかければ、少しずつではありますが人も商品も揃い始めるのでしよう。

今では「逸品カタログ」を発行するほどに、知名度は上がっているのです。

お話いただいた池田氏の言葉の中で「我々は商品のプロ。でもそれが商品開発を阻害していることもある」というのも頷けるものでした。

夜はお待ちかねの懇親会。熊本の食に舌鼓をうちながら、新しくお近づきになれた各地の商店街の方々と、意見交換です。全国各地の方々とのお話は、この研修会ならではのもの。ただ、いろんな方々に言われるのは「石川県はいいですね、たくさん資源をお持ちで」という意見です。そのたびに私は「まだまだ県のポテンシャルを発揮できていない部分があるのではないかと不安にかられてしまいます。

せっかくできた、各地との交流を大切にしながら、石川の魅力を今一度見つめてみたいと考えさせられる研修でした。

武蔵商店街振興組合 副理事長 太田 有彦

「商店街の活性化のための地域住民の需要に応じた事業活動の促進に関する法律」 (通称：地域商店街活性化法) が、本年8月1日施行されました。

新法説明会から！中小企業庁主催
(平成21年7月28日 石川県庁)

商店街が「地域コミュニティの担い手」として行う地域住民の生活の利便を高める試みを支援することにより、地域と一体となったコミュニティづくりを促進し、商店街を活性化させるとともに、それを担う人材対策を強化することになりました。

商店街を活性化させるには、長期・継続的な視点で取り組む必要があり、先に設立した「株式会社全国商店街支援センター」(全国商店街振興組合連合会が中小企業関係4団体共同設立)が商店街と一緒に、商店街の活性化を図っていくことになりました。

■ 地域商店街活性化法の概要

①法の趣旨

- ソフト事業も含めた商店街活動への支援強化
 - ・補助金 補助率1/2-2/3
 - ・税制措置 1500万円の譲渡所得特別控除
 - ・融資関連 小規模事業者等設備導入資金貸付(無利子・貸付割合1/2→2/3)など
- 地域のニーズに沿った空き店舗利用を支援
- 商店街の意欲ある人材を育成・確保
「株式会社全国商店街支援センター」による「人づくり」の取り組み
- 関係省庁・地方公共団体と連携した支援
都道府県・市町村の商店街施策の連携・地域づくりと一体化した支援

②「基本方針」の概要

- 商店街活性化事業の促進の意義及び基本的な方向に関する事項
 - ・商店街活性化事業の促進の意義
 - ・商店街は、「商いの場」+「公共の場(地域コミュニティの担い手)」
 - ・商店街活性化事業の促進に当たっての基本的な方向
 - ・商店街活性化支援事業の促進の意義及び基本的な方向
- 商店街活性化事業に関する事項
 - ・計画作成の主体
 - ・商店街振興組合、事業協同組合、など
 - ・事業の内容

住民の需要

地域住民の商店街に対するニーズ(アンケート調査、要望書、公共団体、商工団体等の報告書などから)を踏まえた事業であること

商店街の活性化の効果

商店街来街者の増加、営業店舗数の増加、空き店舗の減少、構成員の総売上高の増加等の活性化効果が見込まれること

参考となり得る事業

事業内容に新規性・創意工夫が認められるなど他の商店街活性化事業に取り組むに参考となり得る事業

- ・事業期間(3年)
- ・関係地方公共団体の支援・連携を併せて行うこと、など
- 商店街活性化支援事業計画
 - ・商店街振興組合等に対する商店街活性化事業に関する計画の作成に必要な情報の提供及びこれと併せて行う研修、指導又は助言その他の取組により、商店街活性化事業の円滑な実施を支援する事業(作成主体：一般社団法人、一般財団法人、NPO法人)

② 全国商店街支援センター(4月28日設立)について

商店街活性化を推進させていくためには、商店街の意欲ある人材を育成・確保していくことが必須です。個店の経営強化だけでなく、商店街が地域社会の中核として地域全体の公共的な役割を果たすため、それぞれの地域関係者や専門家などと連携し、全国規模のネットワークを活用し必要なノウハウと専門人材を提供し、地域商業、コミュニティの再生・活性化に向けた取り組みを支援するものです。

事業内容は、次のとおりです。(金額記載の無いものは原則無料です。)

①人材研修

- 商店街活動研修
 - ・商店街で計画している活動、又は実施している活動の推進の方策等を学び、新法の認定を目指す「商店街活性化事業計画」の作成等を勉強します。
 - ・毎月2~3回(1回2時間)、3か月以内で6回開催
- 個店経営研修
 - ・個店の更なる経営力強化のための具体的手法を修得する。商店街全体研修(「座学」と「臨店研修」(1店舗当たり現地指導4回で1万円)の組み合わせ、又はオーダーメイドにより行う。
 - ・通常コース6か月(又は短期コース3か月)：月1回の現地訪問研修
- 起業研修
 - ・「開業前研修」(「基礎編」(1か月2回開催)開業を考えている人を対象、「応用編」(毎月2回、3か月開催)
 - ・「開業後研修」(1か月1回開催)開業した人を対象
 - ※いずれも受講生の募集は、後日案内される予定です。

②専門人材の派遣

- ハンスオン支援
 - ・地域商店街活性化取り組みの入り口である、地域住民のニーズ調査、組織・連携体制づくり、商店街の合意形成、その人材育成を始め、事業計画の策定、新法の認定取得、事業実施・検証・改善に至るまで、分野ごとの専門家からなる支援チームを編成して、商店街と一緒に継続的に最適な現地アドバイスをし、活性化を図ります。
- ベシック総合支援事業
 - ・特定地域を活動範囲とする専門家をセンターに登録し、地域商店街活性化法の認定を目指すとする商店街に対して、研修会及び専門家による指導を組み合わせた現地派遣支援し、商店街活性化事業計画作成支援等を行い、計画認定につなげていくものです。
 - ・研修派遣事業▶新法啓発と活性化人材育成：実施回数3回まで
 - ・支援派遣事業▶計画認定に向けた総合支援：派遣回数4回まで

③リテール・サポート

卸売業やボランティアチェーンによる小売業支援を促進し、卸・小売連携の新しい基盤モデルを開発していく。(日本卸売協会に委託済み)

④情報発信・成果普及

各省庁にある支援メニューのガイドづくり、など先進的事例などの紹介。

⑤商店街の交流促進

商店街交流による苦勞話や商店街連携、商店街と産地交流など

「人がつながる、商店街がつながる 商人交差点」 ～商店街活性化のための人材ネットワークシンポジウム～

主催 中部経済産業局・中部地区商店街振興連絡会
(平成20年2月22日 名古屋市)

「NPOとの協働による商店街活動～商店街を元気にするヨソものたち～」

■ 米山 哲司氏 NPO法人「Mブリッジ」理事長(三重県松阪市)

NPO法人「Mブリッジ」は、「チャンネルM」という市民団体を母体とする団体。設立のきっかけは、平成17年1月「松阪市市民活動センター」の指定管理者公募があり、採択されたことによる。

- 平成16年 「松阪市市民活動センター」設立
- 平成17年 NPO法人「Mブリッジ」設立
- 平成18年 同センターの指定管理者となる。

取り組み

①カルチャースクール「ブンカの交流館」駅前通り商店街の協力のもと、駅前商店街ビル「ベルタウン」2階の空きスペースを活用して始めた。

- ・平成19年6月カルチャー講師も公募による市民とした新たな試み。137人の市民から講座をしたいという応募あり、45人に絞り込んだ。市民の隠れた力を講座に生かすことで、学びながら人と交流・集うことができる。受講料は、講師のものとなるため、継続実施できる。
- ・商店街からは、家賃の助成をしてもらっている。駅といえども2階にまではなかなか足を運んでくれない。カルチャースクールは、毎週実施しており、生徒300人余り、ジワジワあがってきている。駅前に出ることにより、ここにごんなお店がある、まちが変わった、ことを肌で感じてもらえるようになった。
- ・空き店舗活用により駅前通りににぎわい創出をしたいと考えて活動しています。講座開設のたびにまちにやってくる人たちに商店街にも立ち寄り寄ってもらおうと、教室に商店街の催しやセールのチラシを置く。店主の参加も求めており、講座休業は商店街の休みにあわせている。
- ・講師も受講者も市民であることから、この関係をおした仲間づくりができ、地域のお祭り、イベントに参加するなど効果があがっている。
- ・こんなまちづくりカルチャースクールですが、駅とからんでまちなかににぎわい活性をやっていることしている、ヨソものです。

②「松阪市市民活動センター」の運営

- ・インターネットサイト「松阪市市民活動情報サイト」の活用
- ・情報誌「AROMA」発行
- ・様々な団体のチラシ等の設置
- ・市民活動の促進に関する事業、助言・コーディネーター事業など

■ 坂 忠男氏 NPO法人大垣まちづくり市民活動支援会議 副理事長

大垣市周辺では、工場跡地に多くの大型SCが立地しているため、中心市街地の商店街の空洞化が進んでいる。まちは、様々な人たちが雑居するところ。それら全てを受け入れ、交流していくことが、これからの方向性となる。として、まちに根差したNPO法人などと活動を共にしていく、「協働型のまちづくり」が重要です。

①NPO法人等との連携

- ・NPO法人大垣まちづくり市民活動支援会議(愛称「大垣すまいるセンター」)(平成15年設立)

- ・西濃圏域NPOネットワーク支援事業(平成15年)
- ・まちづくり市民ファシリテーター養成講座(平成15年～)
- ・安全安心まちづくりネットワーク構築事業(平成17年)
- ・協働コーディネーター養成講座(平成18年)
- ・これから始める地域デビュー講座(平成19年)
- ・「水都まちづくり学校」「赤坂まちづくり学校」など(平成19年)

- ・まちづくり工房大垣(平成10年設立)
- ・「地域づくり型生涯学習」(平成19年)人材養成講座、商店街若者の交流交換の場づくり
- ・マイスター倶楽部(平成10年スタート)平成18年は4者連携プロジェクト推進)
- ・商工会議所、岐阜経済大学、大垣地域産業情報研究協議会、大垣市商店街振興組合連合会による4者協定による朝市、共同イベント実施。

②大垣まちづくり回廊物語

大垣市中心市街地「駅前通り」を「大垣まちづくり回廊物語」と銘打って、通り全体に、空き店舗をボランティア団体の活動の場として、市民活動の実践の場として利用されています。(平成17年から)

